

街道の駅からの小さな旅

# てくてく 甲斐の国

—第17駅—甲府駅(昇仙峡編)



甲府駅からバスに乗り  
「昇仙峡滝上」に向かえば、標高が上がるほどに  
周囲には豊かな自然が溢れ、見事な景観が広がります。  
やがて山中に現れる昇仙峡は、  
まるで水墨画に描かれているような幽玄の世界。  
自然が長い時間をかけて作り出した絶景と、  
そこに息づく歴史や文化を感じながらてくてくと…。



01

## 昇仙峡ロープウェイ

昭和39(1964)年に運行を開始した長い歴史があるロープウェイ。標高1058メートルの山頂のバラマ台駅までは約5分の空中散歩。窓からは四季折々の自然が眺められる。



02

## 弥三郎岳

ロープウェイ山頂のバラマ台駅から徒歩約20分。弥三郎岳の山頂からは富士山、南アルプス、金峰山などの山々が一望でき、360度の絶景が楽しめる。



03

## 仙娥滝

花こう岩の岩肌を削るように落下する落差約30メートルの滝。仙娥とは中国神話に登場する月に行った女性嫦娥のこと。名前から神秘的なイメージが感じられる。



04

## 石門

仙娥滝を過ぎると間もなく見え始める、巨大な花こう岩が天然のアーチ状になっている石門。アーチの先端部がわずかに離れているが、絶妙なバランスを保っている。



05

覚円峰  
(夢の松島)

覚円峰の名称は、その昔、僧侶覚円が頂上へ修行したこと由来。遊歩道の途中にある撮影スポット「夢の松島」から見る直立約180メートルの覚円峰は大迫力。



06

## 羅漢寺

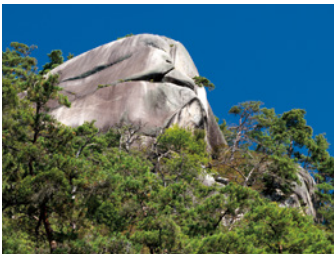
弘法大師空海の作といわれる岩正五百大阿羅漢の木彫像が安置されている。154体が現存し、像底には応永30(1423)年の墨書がある阿弥陀如来坐像も安置されている。



07

渓谷沿いの  
奇岩・奇石

深谷沿いの遊歩道からは、数々の奇岩・奇石を見ることが出来る。亀石、オウセイ石、大砲岩など名前もユニーク。イメージを膨らませながら探るのが楽しい。(写真は猿石)



08

## 長潭橋

大正14(1925)年完成の橋。昇仙峡の玄関口であり観光の歴史を物語る風情がある。戦前に完成した県内の三つのコンクリートアーチ道路橋の一つ。土木遺産に指定されている。



てくてく  
歩きの  
途中で…



東京から昇仙峡の散策に来ていたご夫妻に会いました。旅行が大好きで、山梨には何度か来ているというお二人。「昇仙峡は初めてですが、私は川の流れる音や渓谷の風景が好きなので大満足です。明日は金櫻神社や荒川ダム方面を見て回ろうと思っています。お土産にはワインを買おうかな」(ご主人)「以前、主人が甲府から水晶を買ってきてくれたことがあるんですよ」(奥さま)と優しい笑顔で話してくれました。

てくてく  
甲斐の国

# 昇仙峡 長潭橋

この絶景の中に身を置き、いま昇仙峡の旅が始まる





特別名勝「御岳昇仙峡」。その美しき渓谷は、長潭橋から始まる。全盛期には、渓谷に沿って全長約5kmの道りを多くの観光客が仙娥滝を目指して歩き、観光遊覧トテ馬車が、ひづめの音を響かせていた。現在の昇仙峡は仙娥滝周辺が栄え、長潭橋には、かつてのにぎわいはないが、大正14(1925)年の完成以来、この地の歴史を見守ってきた県内最古のコンクリートアーチ道路橋は、静かな威厳を感じさせてくれる。四季折々の自然が織りなす風景に奥行きを与え、見る人の心に大切な何かを語りかけてくるような、この橋から始まる昇仙峡の旅。今こそ訪れてみたい。